

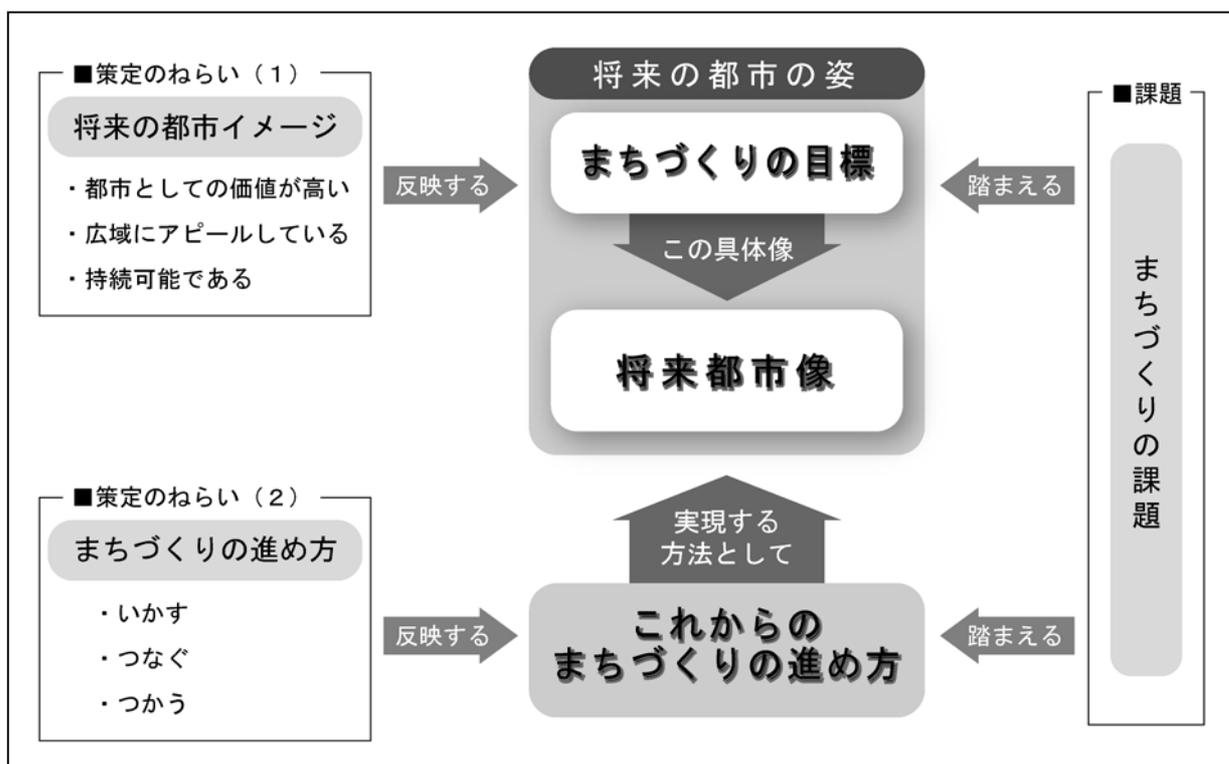
第Ⅱ章 まちづくり全体構想

Ⅱ. 1 将来の都市の姿と、これからのまちづくり

(1)「まちづくりの目標」と「将来都市像」、そして「これからのまちづくりの進め方」の位置づけ

- ・序章のなかの「策定のねらい」及び、第Ⅰ章の「まちづくりの課題」を踏まえ、「将来の都市の姿」と、これを実現する方法としての「これからのまちづくりの進め方」を位置づけます。
- ・「将来の都市の姿」は、「まちづくりの目標」と、この具体像である「将来都市像」で構成します。

「将来の都市の姿」と「これからのまちづくりの進め方」の位置づけ



(2)まちづくりの目標と、将来都市像

■本市を「住み働き楽しむ場である都市」とし、将来も持続的に発展するという視点から、【まちづくりの目標】と【将来都市像】を設定します。

- ・「【まちづくりの目標】は、本市を「住み働き楽しむ場である都市」とし、「安心できる暮らし、活力ある産業、心豊かな触れあい」のある、魅力あるまちづくりの視点から設定します。
- ・【将来都市像】は、平塚市の特性である「豊かな自然」が将来も美しくあり続け、人とまちにより織りなされる“湘南のひらつか”が、活力とにぎわいにあふれ、発展が持続的であるという視点から設定します。

「まちづくりの目標」と「将来都市像」

【まちづくりの目標】

住むなら平塚、あんしんの快適都市
創るなら平塚、かがやきの産業都市
集うなら平塚、ときめきの交流都市

【将来都市像】

豊かな自然につつまれて、人とまちが織りなす
湘南のサステイナブルシティ ひらつか

サステイナブルシティ：環境を損なわず発展が持続可能な都市という意味です。地球環境保全のため都市や市民ができることは何かを求め、技術開発を含めこれに取り組み、また、この美しい平塚市を次世代につないでいくことが重要です。

■「まちづくりの目標」の内容を示します。

住むなら平塚、あんしんの快適都市

平塚は、首都圏にあって都会性と自然性をあわせもち、様々な生活スタイルが選択できる都市です。

誰もが安心して、心豊かで生涯快適に暮らし続けることができるよう、住みよさに重きをおき、誇りや愛着がもてるまちづくりを進めます。

創るなら平塚、かがやきの産業都市

平塚に培われた産業は、今後も社会ニーズに応え持続的に発展し、市民の暮らしを支えていくことが期待されます。

先見性をもち新たな価値創造に挑戦する英知が地域と連携し、自ら発する活力により時代を先導し、広くアピールする輝かしい産業のあるまちづくりを進めます。

集うなら平塚、ときめきの交流都市

平塚には七夕まつりや総合公園、湘南平、湘南ひらつかビーチパーク、プロスポーツチームなどがあり、様々な人が集う交流資源となっています。

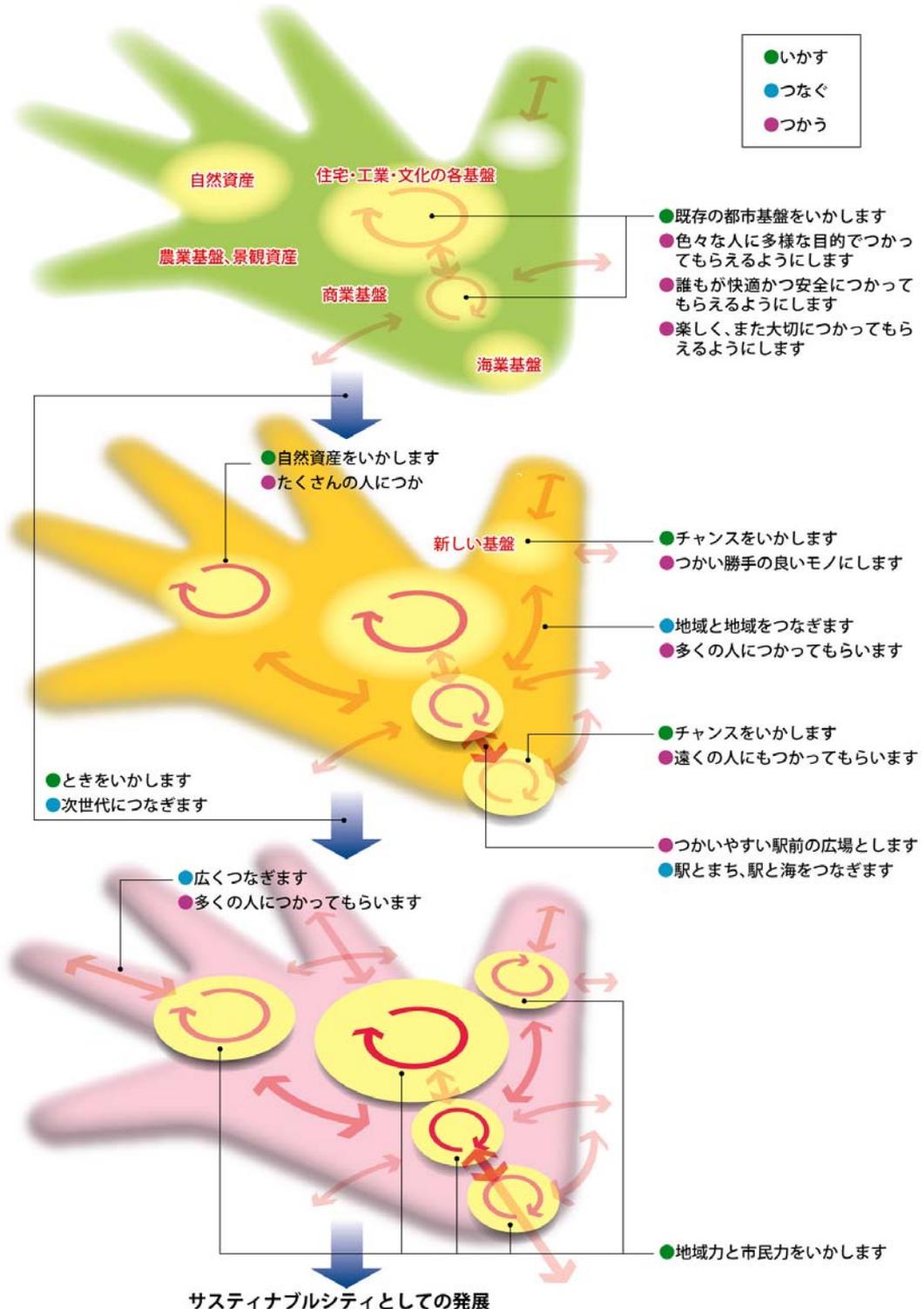
訪れる人も迎える人も、様々な出会いや交流を通じてときめき、そして心豊かになるまちづくりを進めます。

(3)これからのまちづくりの進め方

これからのまちづくりは、既にあるモノまたは新たにできるモノをいかし、つなぎ、有効につかうという考え方を基本として進めます。

「これからのまちづくりの進め方」の基本的な考え方

【これからのまちづくりの進め方】
「いかす・つなぐ・つかう」



Ⅱ. 2 将来都市構造

(1) 将来の広域的骨格概念

■将来の都市構造を構成する主要要素を示します。

各要素はいかし、相互につなぎ、有効につかいます。

- ・本市の将来の都市構造を、広域的な視点からとらえ、広域的骨格概念として構成する要素を以下の通り示し、「いかす」と「つなぐ」と「つかう」というまちづくりの考え方で整理します。

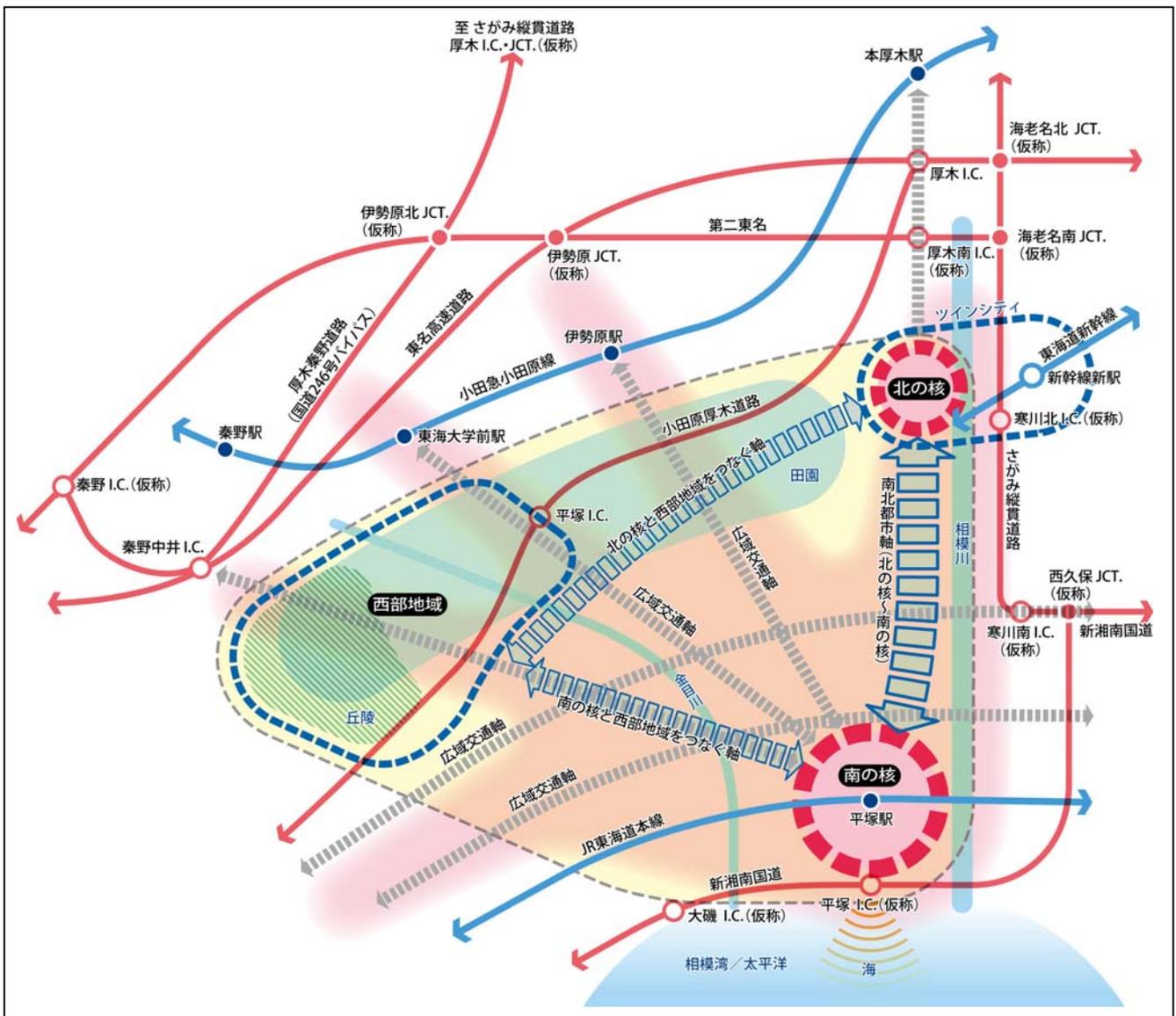
構成する要素

要素	構成する主な内容	構成の背景と「いかす・つなぐ・つかう」の方針
基本構造	<ul style="list-style-type: none"> ■核と地域 <ul style="list-style-type: none"> ・南の核 ・北の核 ・西部地域 ■都市軸と軸 <ul style="list-style-type: none"> ・南の核と北の核をつなぐ南北都市軸 ・西部地域と南北の二つの核をつなぐ軸 	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚駅周辺の中心市街地を南の核に、ツインシティを北の核に位置づけ、この2つの核を強力につなぐための都市軸、そして学術機関や研究所などが立地し自然環境が豊かな西部地域、この西部地域と南北二つの核をつなぐ軸をもって、本市の将来の基本構造とします。
基本土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・海 ・川 ・丘陵 ・田園 ・市街地 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の貴重な資産です。それぞれの特徴をいかし有効につかいます。
広域交通結節機能	<ul style="list-style-type: none"> ■鉄道駅 <ul style="list-style-type: none"> ・東海道線・平塚駅 ・東海道新幹線・新駅（市外） ・小田急小田原線・本厚木駅（市外） ・小田急小田原線・伊勢原駅（市外） ・小田急小田原線・東海大学前駅（市外） ■高速道路インターチェンジ <ul style="list-style-type: none"> ・小田原厚木道路・平塚 I.C. ・新湘南国道・平塚 I.C. ・東名高速道路・秦野中井 I.C.（市外） ・さがみ縦貫道路・寒川北 I.C.（市外） 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の玄関口である平塚駅とまち（中心市街地）をつなぎます。 ・市外近傍に位置する東海道新幹線新駅と、小田急小田原線の3駅は、本市にとって重要な広域交通結節機能と位置づけ、本市とつなぎます。 ・市内及び市外近傍のそれぞれ2つのインターチェンジを本市にとって重要な広域交通結節機能と位置づけ、本市とつなぎます。
広域の交通軸	<ul style="list-style-type: none"> ■東西方向 <ul style="list-style-type: none"> ・駅南側市街地から東西 ・中心市街地から東西 ・駅北側市街地から東西 ・北の核で東西 ■放射方向 <ul style="list-style-type: none"> ・平塚海岸や南の核～北の核～本厚木駅 ・南の核～伊勢原駅 ・南の核～東海大学前駅 ・平塚海岸や南の核～秦野中井 I.C. 	<ul style="list-style-type: none"> ・東西方向に走る2本の国道と湘南新道、及びツインシティにおいて相模川の東西を一体化する道路を位置づけます。 ・湘南新道の整備により、市街地の東西方向の流動を実現します。また沿道の経済活動や市民交流を促します。 ・平塚駅と市外周辺の3駅と秦野中井インターチェンジを結ぶ放射軸を位置づけます。 ・交通結節点である3駅周辺の経済・文化などの機能を本市の南の核や平塚海岸とつなぎ、相互に機能を高めます。

将来の広域的骨格概念（手のひら構造）

本市を広域的骨格概念でとらえた場合、人の手のひらに類推されます。今後の都市構造を、手のひらに見立て、それぞれの要素が役割分担のもと連携し、総合的に力強く機能させていく考え方で形成していきます。

- ・南の核である中心市街地を手のひらの中心において、南の核と北の核をつなぐ南北都市軸を、もっとも力強い親指にみたて、小指に力を入れて左右に張ります（東西に広げ、つなぎます）。
- ・そのほかの3本の各指は役割分担のもと放射方向に、節々で市内各地域にある様々な機能とつながり、さらに市外の交通結節機能をつないでいきます。



(2) 将来都市構造

(イ. 基本構造の方向性)

■「2核1地域」を形成し、いかします。

①南の核

・平塚駅周辺の商業・業務の中心を「南の核」とし、商業・業務、文化と居住との共存を進め、中心市街地の魅力づくり、にぎわいづくりをめざします。

②北の核

・神奈川県南のゲートとして計画されているツインシティを本市の「北の核」とし、新幹線新駅や広域自動車道へのアクセス性をいかし、環境との共生を理念とした新たな産業や業務機能の集積をめざします。

③西部地域

・本市の南西部に広がる地域は、次世代につなぐ貴重な里山として保全し活性化します。また、環境や自然をテーマに教育、交流、レクリエーション機能の場づくりなど自然環境と調和した地域づくりを進めます。
・地域の活性化に資する土地利用に努めます。

(ロ. 基本土地利用の方向性)

■基本土地利用は、「商業・業務系市街地」「住居系市街地」「工業・産業系市街地」「集落地・農地・自然系用地」で構成されます。

商業 ・業務系市街地

・南の核周辺を「商業・業務系市街地」とします。

住居系市街地

・おおむねJR東海道新幹線より南側の既成市街地や進行市街地と、西部地域の新市街地を、「住居系市街地」とします。

工業 ・産業系市街地

・相模川沿岸地域や、平塚市総合公園北側の東浅間大島線沿道などを「工業・産業系市街地」とします。

集落地・農地 ・自然系用地

・市街化調整区域の優良な農地及び集落地、平塚海岸、水辺、西部丘陵地のみどりを「集落地・農地・自然系用地」とします。

ツインシティ (大神地区)

・さがみ縦貫道路の開通の効果を生かすため、ツインシティ（大神地区）に新たな核となる産業系を主体とした土地利用を配置します。

■自然環境が重要なことから、「良好な水辺の環境と調和したゾーン」と「豊かな自然をいかしたゾーン」を形成します。

良好な水辺の 環境と調和した ゾーン

・平塚海岸や相模川、金目川水系の豊かな自然は、水辺の環境を形成する貴重な自然資源であるため、「良好な水辺の環境と調和したゾーン」とします。

豊かな自然を いかしたゾーン

・高麗山から湘南平周辺、そしてさらに西へと連なる丘陵の豊かな自然は、平塚の自然環境を形成するみどりの環境であるため、「豊かな自然をいかしたゾーン」とします。

(ハ. 拠点の方向性)

地域特性を踏まえて、文化や交流、レクリエーションなどを総合的に集約する拠点を位置づけます。

■「みどりと水辺の活用拠点」を形成し、いかします。

④平塚市総合公園周辺

・平塚市総合公園と公共施設ゾーンに展開するスポーツ施設やレクリエーション施設、文化施設、みどり豊かなオープンスペースなどは、街なかのオアシスです。また、見附台周辺地区は音楽・芸術に触れ合える場所です。各種施設はさらにつかひやすくし、歩行者空間や自転車空間、みどり空間などを充実し、誰もが楽しめる健康で文化的なゾーンとします。

⑤ひらつかの海

・ひらつかの海の魅力を高め、市民や市外から訪れた方がもっと楽しめるよう、相模川と花水川の一部も含め、海と川をいかした総合的なレクリエーションゾーンとします。
・さがみ縦貫道路の開通により広域的なアクセス性が高まる機会をいかして、その利用を一層高めます。

■「みどりのふれあい拠点」と「水辺のふれあい拠点」を形成し、いかします。

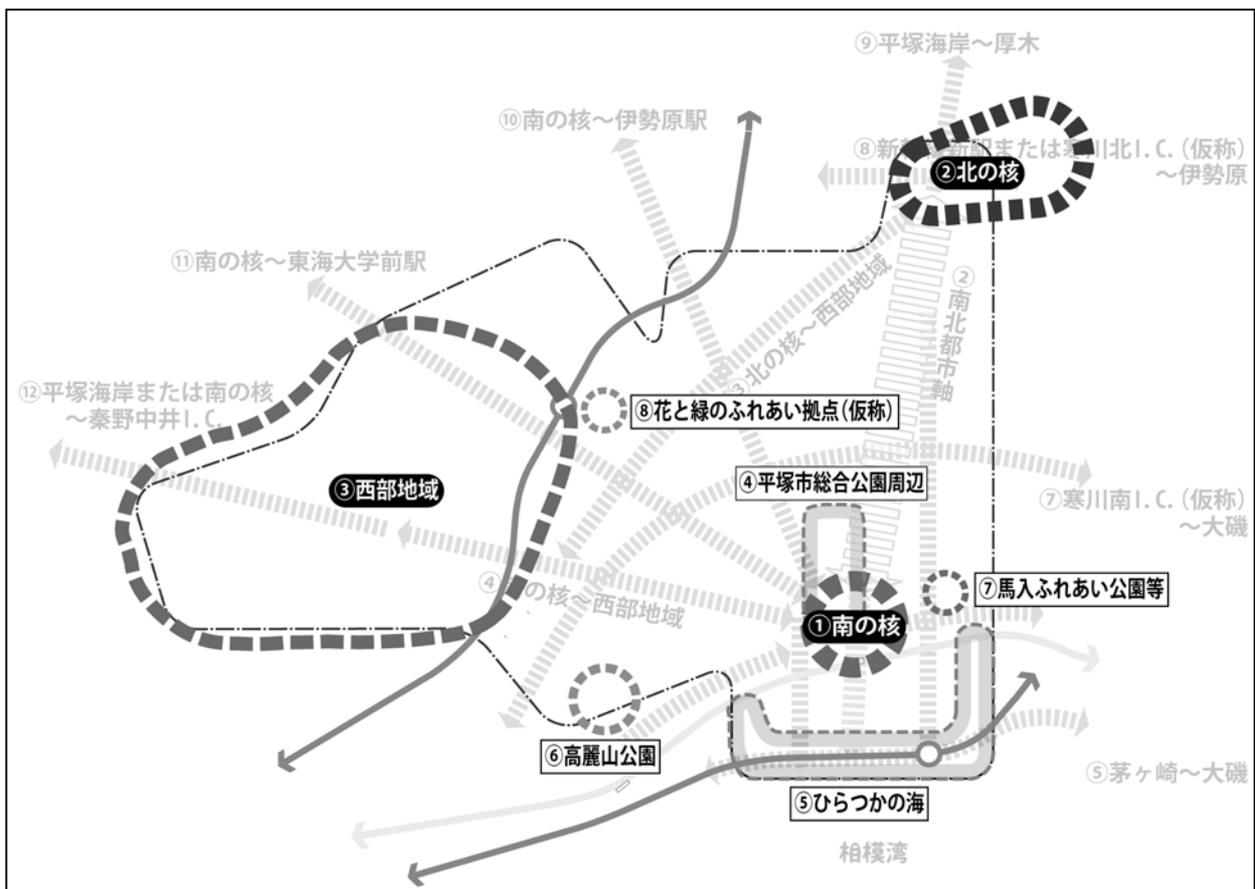
⑥高麗山公園

⑦馬入ふれあい公園等

⑧花と緑のふれあい拠点（仮称）

・交流やレクリエーションを通して満喫できる拠点として、みどりと水辺のふれあい拠点を形成します。

2核1地域（①～③）、2つの活用拠点（④～⑤）、3つのふれあい拠点（⑥～⑧）の位置



(二. シンボル軸と都市軸の方向性)

■玄関口としての風格や景観を重視する「シンボル軸」を、平塚駅を中心に南北につなぎます。

①シンボル軸

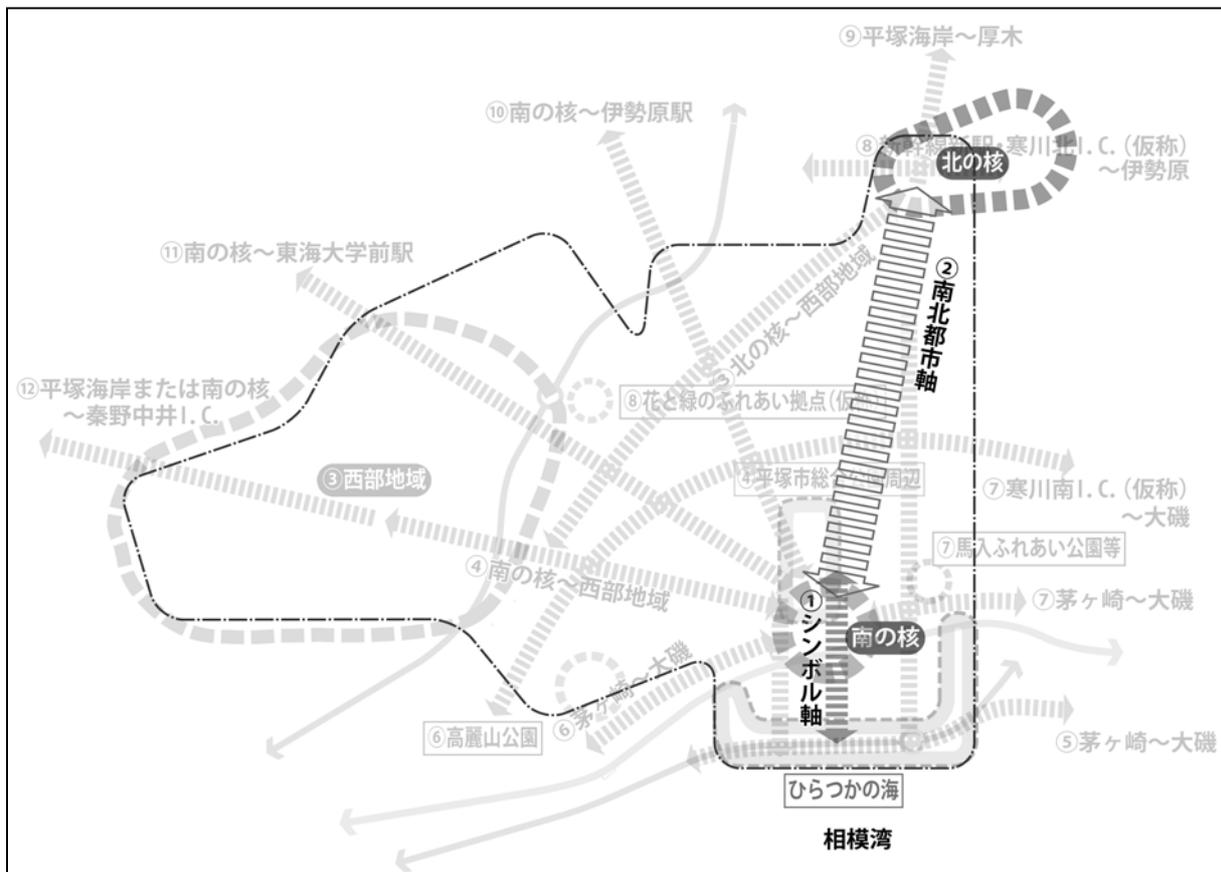
- ・平塚駅を中心に、北は「平塚市総合公園周辺」へ、南は「ひらつかの海」へ至る南北の都市空間を「シンボル軸」とし、来街者にやすらぎと潤いを与え景観に配慮した美しい空間づくりを進めます。
- ・平塚駅を本市の玄関口と位置づけ、その周辺は「風格」や「魅力」「もてなし」機能などを高めます。

■都市活動や交流、交通などのネットワークを基本とする「都市軸」で、南の核と北の核をつなぎます。

②南北都市軸

- ・南の核と北の核をつなぐ軸を「南北都市軸」とします。本市の都市活動の中心となる地域を形成するうえで根幹となる軸です。両核がもつ各種機能の交流を進め、また軸上の都市活動を支えそして広域へと誘導します。
- ・南北都市軸上では、これまで蓄積されてきた都市機能に配慮しつつ、公共施設ゾーンや産業集積ゾーンの維持発展を基本として、土地利用の特性に応じたゾーニングを行い、積極的な土地利用や施設立地、景観形成などを進めます。

1本のシンボル軸(①)と1本の都市軸(②)の位置



(ホ. 交通軸の方向性)

■「東西交通軸」と「放射交通軸」により、本市の交通軸を形成します。

区分	東西交通軸	放射交通軸
市内をつなぐ交通軸	<p>③北の核と西部地域をつなぐ軸</p> <ul style="list-style-type: none"> 北の核と西部地域を結び、西部地域にある学術機関や研究所と、北の核に誘導する新たな研究・業務機能との交流を進めます。 	<p>④南の核と西部地域をつなぐ軸</p> <ul style="list-style-type: none"> 南の核と西部地域を結び、相互交流を行うと共に市民が自然や農業とふれあい、自然の保全や農産物の地産地消を進めます。
市外をつなぐ交通軸	<p>⑤駅南側市街地で、茅ヶ崎から大磯方面 ⑥中心市街地で、茅ヶ崎から大磯方面 ⑦駅北側市街地で、寒川南インターチェンジ(仮称)から大磯方面 ⑧北の核から東は新幹線新駅または寒川北インターチェンジ(仮称)方面、西は伊勢原方面</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路上の通過交通の処理機能を高めると共に、市外の交通結節点とつなぐ道路整備を進めます。 道路整備にあわせ、新たなバス網の整備を検討します。 	<p>⑨平塚海岸、または南の核から北の核を経由して厚木方面 ⑩南の核から伊勢原駅方面 ⑪南の核から東海大学前駅方面 ⑫平塚海岸、または南の核から秦野中井インターチェンジ方面</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路によって、南の核や平塚海岸と市内の各地域の機能が結ばれ、さらに市外の交通結節点へとつなぎます。 バス交通を充実すると共に、新しい公共交通の導入を検討します。

5本の東西交通軸(③及び⑤~⑧)と、5本の放射交通軸(④及び⑨~⑫)の位置

